

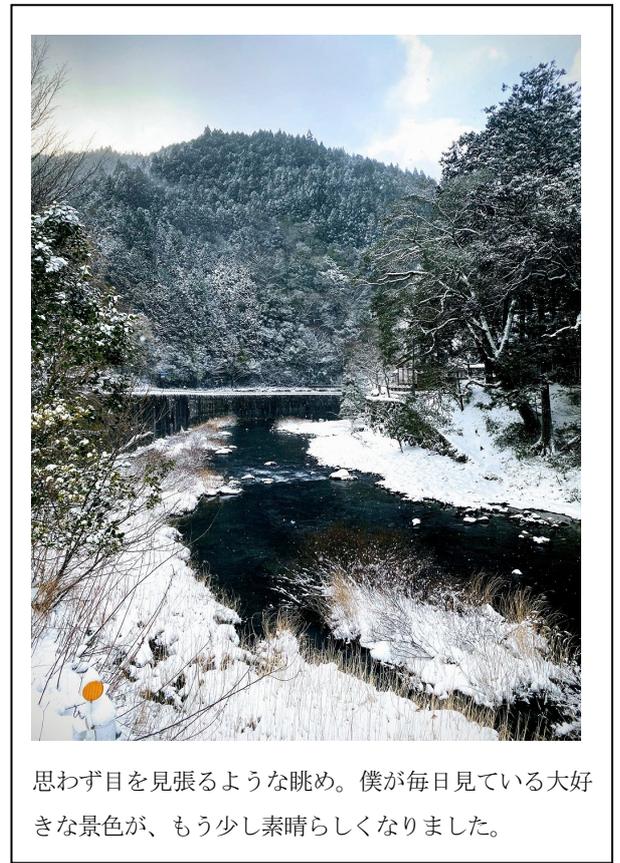
## Yusuhara a Home from Home (第4部)

### ここ最近を振り返って (Reflections and the Awakening of Winter)

今年の1月は、世界中の人々にとっていろいろな意味での区切りとなりました。新しい年の始まりだったこと。2020年代の幕開けとなったこと。すごくいいことがあるんじゃないかという気持ちにさせてくれたこと。そして、何か新しいことを始めようか、というきっかけにもなったこと。そういう考えがこれからもずっと続くといいな、と個人的には願っています。僕は年末年始のこの時期、イギリスに帰国していました。クリスマスと新年を、家族と一緒に楽しく過ごすことができました。

休みも明けて梶原に戻ってきました。新年と同じように、物事が速やかに変わりつつあるということがわかりました。今年度の終わりが近づくにつれて、卒業に向けての準備がもう始まっています。9年生たちは中学校生活の終わりと、高校進学という大きな一歩に気持ちを向けています。学園を卒業していくことを考えれば、彼らの多くは悲しくなってしまうでしょうが、それでもやはり期待に胸を膨らませていることにきっと変わりはないと思います。ぼく個人としても、彼らが学園からいなくなってしまうと、少しも寂しくないと言えは嘘になります。ともかく、卒業生のみなさんが、自分の中学校生活が素晴らしいものだったと振り返ることができますように……。

そうそう。大きな変化があったのは、1歳年をとったことと学校の様子だけではありません。天気も最近、急激な変化に見舞われました。冬がいよいよ本気を出して、強い吹雪とすごい雪とともにやってきたのです。雪の量は、個人的には見たこともないくらいのものでした。何よりびっくりしたのは、これほどの雪がたった一晩で降り積もったことです。かかとの上くらいまで積もっていたので、ちょっとかきわけて歩かなければいけないほどでした。雪が降った初日、家の外に出た瞬間というのは、本当に特別なものでした。しんとした空気。雪景色の美しさ……他のどこに行っても見られないような、ある種の静けさがそこにはありました。イギリスではめったに雪が降ることがありません(数年間でわずか数時間くらいでしょうか)。そしてたとえ降ったとしても、地面にうっすらと積もる程度のものでした。そんな僕の故郷に比べれば、雪の小さなひとかけらでさえ、思わず見とれてしまうような光景なのです。この町の美しさは、もう大好きでしたけども、加えて雪景色の梶原を見ることができたのは、僕にとっては素晴らしいプレゼントでした。



思わず目を見張るような眺め。僕が毎日見ている大好きな景色が、もう少し素晴らしくなりました。

(訳者注：この文章は、新型コロナウイルスの感染拡大前に書かれたものです。)

(日本語訳：町 ALT 森竹弘喜)